

女性のチャレンジ・応援します ✨

チャレンジ事例集 **Vol.4**



宇都宮市男女共同参画推進センター

はじめに

本市では、男女共同参画社会の実現に向けて、女性がより個性と能力を十分に発揮し、新しい発想や多様な能力を活かせるよう、さまざまな分野で女性の「チャレンジ」を応援しています。

この度、本市で活躍している女性からの元気なメッセージを『女性のチャレンジ事例集』としてお届けします。チャレンジを考えている方、あるいは現在準備中の方など、さまざまなチャレンジの参考としてご活用いただければ幸いです。

平成22年3月

目 次

《女性のチャレンジ事例》

- ◇音の森教室主宰
山田 紀子さん・・・・・・・・・・ 1

- ◇明保小学校 PTA 会長
山崎 昌子さん・・・・・・・・・・ 2

- ◇ほっとすぺいすコアランド代表
NPO法人障がい者福祉推進ネット ちえのわ理事
吉永 久美子さん・・・・・・・・・・ 3

- ◇下野新聞 アスポ リポーター
川崎 文子さん・・・・・・・・・・ 4

- ◇キャリア・カウンセラー
伊澤 英子さん・・・・・・・・・・ 5

《チャレンジお役立ち情報》

- ☆再就職成功のカギ
求人情報収集術～「何かないか」の意識で情報量は大きく変わる～
伊澤 英子さん・・・・・・・・・・ 6～7

女性のチャレンジ事例

さまざまなステージで
輝いて活躍されている女性を紹介いたします。





音の森教室主宰

やまだ のりこ
山田 紀子 さん

人とのつながり

私は幼いころの夢だったピアノ講師になり、沢山の人とのつながりの大切さを感じながら充実した日々を送っています。ピアノの先生になりたいと思ったきっかけは、幼いころに習っていた先生が優しくてピアノが上手で憧れの存在だったのです。正直、練習はあまり好きではありませんでしたが(笑)辞めたいと思ったことはありませんでした。

そして夢だったピアノ講師になることが出来ましたが、最初は生徒一人からのスタートでした。「ピアノを教えます」と言ったからといって、すぐに生徒が集まるわけもなく……。チラシを作り配ったりもしました。有難い事に友人も手伝ってくれました。しかしそれでも中々、実を結ぶことはありませんでした。

お教室の1番の宣伝効果は何でしょう？それは、最近特に口コミかなと感じています。では広告と口コミの違いは何でしょう？口コミには信用・信頼がある！というのが大きいのではないのでしょうか。「日々努力し、自分が成長して、そこに信頼が生まれお教室が成り立って行く」そんな気がします。最近では、お教室に来てくれる生徒さんの低年齢化が進んでいます。赤ちゃんだけでなくお母様にも一緒に音楽を楽しんでほしいと願うと共に、もっと赤ちゃんの事を知りたい！勉強したい！と思い、ベビーマッサージセラピストの資格を取得しました。子育てをしながらの勉強は、正直大変なこともありましたが、その時に得たものはとても大きな財産となり、新たな第一歩となりました。そして現在、ベビーマッサージセラピストの育成も頑張っています。栃木ではまだまだ認知度の低いベビーマッサージ！とてもすばらしい効果がたくさんあるので、それを広めていきたいと思っています。

さてここで、ある日のレッスン模様をお伝えしたいと思います。幼児の音楽グループレッスン♪〇〇ちゃんの一言をきっかけに、カリキュラムから外れて良い意味での脱線(笑)。子どもの発想はすごい！どんどん広がっていきます。最後にはやりたかった以上のことに発展したりもするのです！毎回、驚いたり笑ったり成長が嬉しかったりと、この仕事にとってもやりがいを感じています。教えているはずの私が本当に楽しくて！子どもってすごいな～！！

最後に、私はこんな言葉を常に心に置いています。「お教室を開いたらゴールではなく、そこからスタート！」スタートしたら動き出すってことですよね！立ち止まらないように、ゆっくりでも前に進んで行けるように！現在もスキルアップのために講習会等には積極的に参加するようにしています。そこには新しい発見や気づきもあって楽しいです。そして出会いもあります。同じ志を持った仲間が出来ることは、個人のお教室の講師にとってありがたいことです。これからも、たまに立ち止まることはあっても、また前に進んでいけるよう頑張っていきたいと思っています。

人とのつながり・関わりがとっても大切に感じている今日この頃です。



明保小学校 PTA 会長

やまざき まさこ
山崎 昌子 さん

楽しく、そしてダイナミックに 子どもたちの世界を広げたい

20代の頃は、仕事の傍ら青年団のスポーツやボランティア活動を通し多くの友人ができました。地域の子どもたちやお年寄りが喜んでくれる楽しいイベントを企画するのがとても楽しく、年齢や職業の違う人たちとの交流も勉強になり、視野が広がりました。

数年後、私は、鳥取砂丘で野菜の栽培に成功した鳥取大学の遠山先生と出会いました。地球の各地で砂漠化が起きているという厳しい現実を知り、ゴビ砂漠やアフリカの緑化に取り組んでいるという壮大な話を聞き、「若者たちの力を貸してほしい」という言葉に心が動きました。「中国内モンゴル砂漠緑化植林隊」を仲間と企画し、新聞やラジオなどを通し、約40名の参加者を集めることができました。青年団員もいれば高校生や70代の方など賛同して下さった一般の方もいました。私は隊長という立場で参加し、隊員の安全とチームワークや第1次隊としての役目を果たそうと心がけました。中華全国青年連合会の協力が得られた事も成功の大きな要因です。北京から砂漠までの長い距離を安全に道案内してくれ、植林作業も手伝ってくれました。隊員の疲れを癒すためラクダに乗せてくれたり、美味しい手料理をふるまってくれたり、とても友好的でした。現地に住む人々にとって美しい緑を取り戻したいという願いは切実で、日本と中国の若者が国境を越え、一緒に取り組んだことも大きな意義があったように思います。植林隊は後輩が引き継ぎ、18年たった現在も続いています。

その後結婚し、育児や介護で行動範囲は独身の頃より限られましたが、子どもたちに広い世界があることを伝えていきたいと思いつけています。

現在は、PTA会長を務め5年目を迎えます。PTAの仲間にも恵まれ、先生や地域とのネットワークを大切にしながら楽しい企画を話し合っています。一番の助言者は、我が家の3人の子どもたちでもあります。昨年は自衛隊にお願いし、「南極観測船しらせ」隊員が貴重な南極の氷を明保小に持ってきてくださいました。本物の南極の氷に触れた児童が「タイムカプセルにのり、一万年前の地球を感じた。マンモスも触ったのかな？地球環境を守りたいと思った」と感想を寄せてくれました。今年度は、初めての取り組みで、「愛・いのち・地球」をテーマに「児童フォトコンテスト」を開催しました。家族の笑顔、身近な自然、旅先の風景など、子どもたちのすばらしい感性が写真に表れ、見る人に感動を与えてくれました。

大人が真剣に知恵を出しあった、ダイナミックな楽しい企画は子どもたちの心にもわくわく感が伝わるはず。親子共に成長できるPTA活動を目指していきます。



ほっとすべいすコアランド代表

NPO法人障がい者福祉推進ネット ちえのわ理事

よしなが くみこ
吉永 久美子 さん

障がい児の子育てから気付いた事 ～多くの人に知って欲しい～

私自身ごくごく普通に育ち、結婚、それ以降も、普通に出産し子育てするはずだったのに…初めて授かった子に障がいがあり、突然普通の生活を送る事が困難になりました。当時の私には、障がいについての知識がなく、偏見もあった為、とてもショックでした。自分の子が普通に育っていかない辛さを抱え、どんどん引きこもりになっていく自分に「これではいけない」と感じ、同じ境遇の人との出会いを求めて外に出るようにしました。子どもと一緒に色々な所に通うようになり、専門職の方々や障がい児をもつお母さんと知り合うことができ、沢山の情報や励ましを頂くことで、私の中で、「障がい児を抱えながらも元気に楽しく生きていこう」という気持ちが出てきました。次に生まれた子も障がいがありましたが、気付いた頃から前向きに子育てできました。更にもう1人子どもが授かり、より忙しい毎日を送っていますが、沢山の人の力を借りながら、3人の子ども1人1人の個性を尊重した子育てを心がけているところです。末っ子には障がいはありませんが、「きょうだい児」として親にはわからない悩みも抱えて育っていくことを考え、きちんと見守る事が大切です。こんな事から、10年前、同じ境遇の家族の交流の場が必要だったので、「ほっとすべいすコアランド」を立ち上げました。親子でホッとできる場での仲間作りができ、余暇も皆で楽しく過ごそうと、日帰りやお泊りのバスツアー、ハイキング、ボーリングなどに出かけ親睦を深めています。1つの家族だけでは出来ない事も、皆でやることで様々な経験を積み重ね、自信に繋がっています。毎回ボランティアさんに入ってサポートしてもらうことで、色々な方々に私達のような家族の存在を知ってもらう機会となっています。また、NPOちえのわでは、3年前から市内の小中学校で、障がい理解啓発出前授業を行っています。地元の学校で、私の2人の子の障がいの特徴や苦手な事、そして頑張っている事、得意な事などを写真や絵や作品を見せながら話したことがきっかけになり、NPOの活動として広がり、最近は学校だけでなく、専門職研修やPTA・ボランティア向けの研修等で、出前講話としても依頼が増えています。私自身がそうだったように、一般の人は障がいについてよく知りません。障がいについて正しく知る機会がないことで、誤解や偏見を作ってしまう。子どもの頃から障がいについて知る機会、そして、知った上でふれあう機会が継続的にあれば、優しい気持ちのある人が増え、社会全体が思いやりにあふれるように思います。手のかかる子を抱えながらの活動は大変ですが、これらの活動により、私達家族が暮らしやすい社会に少しずつ変わっている実感があるので、今後も仲間を増やしながらかんがっていきたくと思っています。親なき後も、障がいある子も、きょうだいも、幸せに生きていける社会になっていることを願っています。



下野新聞社 アスポ リポーター

かわさき ふみこ
川崎 文子 さん

栃木県次世代人材づくり事業に参加して

「とちぎ未来へのパスポート2008～新しい自分に会いにいこう！」に参加して1年半が過ぎました。アメリカ・インディアナ州への研修でしたが、つい先日のもあり、遠い昔の出来事だったような気がします。

20代は、OL（正社員）。30代は、両親の介護。40代前半から現在の仕事に就き、10数年が経とうとしています。学生時代からマスコミ志望でしたので、仕事ではありますが、楽しく充実した日々を過ごしております。しかし、これが永遠に続くわけではありません。少し前から60代以降のことを考えるようになりました。仕事中心だった今までの生活を振り返り、一主婦に戻ったときのことを想定し、少しずつ地域とのかかわりを準備してみたいと思い始めました。下野市で両親の介護をしていたとき、親戚やご近所の方に本当にお世話になりました。時間ができたら、なにか自分にもできることがあればと考えておりました。そのような時に「新しい自分に会いに行こう！」のキャッチフレーズに出会ったのです。募集要項を見ると、年齢的に最後のチャンスでした。突然の参加宣言で、家族や友人など周囲の者を驚かせ、地域の活動やボランティアの経験もないままの参加となりました。

7日間のアメリカ研修は、久しぶりのグループ行動とタイトなスケジュールの中で、目まぐるしく終了しました。オバマ大統領の地元であるシカゴの空気に触れ、インディアナ州の広大なトウモロコシ畑を、バスの車窓から眺めながら移動しました。同州では、インディアンと戦った開拓時代の記念イベントにも参加。さらに、母親が働きやすい職場全米No.1の製薬会社や女性実業家協会などを訪問し、女性が自由に働ける環境の中で、生き生きと活躍している様子を直接肌で感じられたことが大きな収穫でした。

帰国後は、とちぎつばさの会宇都宮支部に入り、宇都宮市女性団体連絡協議会の事務局に携わっております。全てが初めてづくし。仕事の合間をぬっての活動でもあり、諸先輩方にご迷惑をおかけしながら、自分にできる範囲内で参加しています。今後も無理をせず、長続きできるよう活動していきたいと思っております。

2010年度は、フランスへの海外研修が予定されています。「案ずるより産むが易し」。興味のある方は、ほんの少し勇気を出してぜひ参加してみてください。確実に、今までの自分とは“違う自分”に出会えるはずですよ。



キャリア・カウンセラー

いざわ えいこ
伊澤 英子 さん

働く私の原点は「1枚1円の内職」

結婚・妊娠を機に退職し、8年間専業主婦だった私に再就職へのスイッチが入ったのは、夫の実家隣に家を建てて引っ越しを済ませ、下の娘の幼稚園入園を半年後に控えた秋のことです。「いよいよ働く時がやってきた！」そう思いました。

それからは、“寝ても覚めても考えるのは仕事のことばかり”とはいっても、半年後にしか働けないのに応募するわけにいきません。しかし、「働きたい」スイッチが入ってしまった私はいてもたってもいられず、「家でもできる仕事=内職」を思い立ちました。

求人広告を穴があくほど眺め、子どもを連れてハローワークにも行きました。しかし、望む求人は探せず、どうしようかと思案していた時、知人から、「実家のお母さんが内職をしている」という話を聞き「紹介して!!」と頼み込みました。こうして、「フラットファイルに金具を取付け、折って100枚ずつ梱包する内職」ができることになりました。

あっという間に新築の和室は段ボールの山となりました。1枚1円。どんなに頑張っても100枚仕上げるのに1時間、時給100円です。しかし、「頑張れば頑張るほど目に見える成果となり、さらには報酬という形で返ってくる」ことが、それまでの主婦業では感じられない達成感と満足感がありました。

一日の大半を部屋に籠っての作業。家事は手を抜き、子どもは傍らで遊ばせておくという状況でしたが、夫も2人の子どもからも不満の声は聞かれませんでした。むしろ協力的で、そんな状況を楽しんでいたようでした。きっと、当時の私には「働きたいオーラ」がみなぎっていて、文句が言える雰囲気ではなかったのでしょう。

内職を始めて3カ月経ち、幼稚園入園も目前、求人広告を見る目にもさらに気合いが入り始めた頃、以前に勤めていた会社から声をかけていただき、即答OKし、パートで勤務することが決まりました。

こうして、パートから職業人としての再スタートを切りました。その後、子どもの成長や自身のキャリアアップを考えて転職もし、働き方を変えてきましたが、家族は反対することなく受入れてくれています。

私にとっての再就職は、「内職」だったと思っています。自分の中の「働きたい」という強烈なエネルギーを確認できたこと、そして「1枚1円の作業」を通して実感した「働くよろこび」は、その後の私の仕事観にもなっています。また、3カ月で手にした収入はわずかなものでしたが、家族が「働きたいお母さん」を理解し、受入れる準備となったことは、今につながる大きな収穫だったと思っています。

チャレンジお役立ち情報

再就職を目指している方へ
役立つ情報を紹介いたします。

執筆者：キャリア・カウンセラー 伊澤 英子さん





再就職成功のカギ

求人情報収集術

～「何かないか」の意識で情報量は大きく変わる～

「再就職」を思い立ったら、あなたはどのようにして仕事を探しますか？
相談の中には「探し方がわからない」と先に進めないでいる方もいます。あるいは特定の情報ツールだけを見て「希望する求人がどこにもない」と訴える方もいます。

実は求人情報はあらゆるところにあるのです。

下記に紹介するようなさまざまな情報入手方法を使って、ぜひ視野を広げて情報収集をしてみてください。ポイントは、常に「何かないか」のアンテナを伸ばしていること。意識するかしないかで情報の入り方は大きく変わってきます。

たとえいい求人がすぐに見つからなくても、継続してチェックしていると「どんな求人が多いのか」「希望する仕事の条件や必要とされる能力」などが読み取れるようになってきます。そうしているうちにご自分の能力や希望と実際のギャップに気づき、「現実的な目標」を立てられるようになります。

～ハローワーク～

窓口で仕事探しの申し込みをすれば誰でも気軽に閲覧することができます。インターネットでもハローワークの求人は見ることができますが、こまめに足を運ぶことをお勧めします。JR宇都宮駅前のマザーズサロンでは子ども連れで求人を検索することもできます。職業相談や講習会、職業訓練情報など働くための様々なサービスが受けられます。

～新聞折り込み求人広告～

「同じ会社ばかり、パートやアルバイトばかり」と決めつけている方もいますが、そんなことはありません。「きっと何かあるはず」じっくり隅々まで見てみれば、いい求人に出会うことができます。



～求人雑誌やフリーペーパー、掲示板やお店・会社の張り紙、自治体の広報誌など～

なんとなく街を歩いていませんか？「何かないか」のアンテナを伸ばして歩いていると、そこにもここにも

「〇〇募集」の言葉が目飛び込んできます。



～人脈やネットワークの活用～

知り合いからの紹介で仕事が決まる確率は意外に高いのです。親戚関係、友人知人、元勤務先の上司や同僚などなど社会人経験もあり子どもや地域とのおつきあいもある主婦の人脈はあなどれません。ただし、黙っていてもあなたが「働きたい」ことは分かりません。積極的に「働く意思」をアピールしましょう。

～インターネットで24時間情報収集～

インターネットを活用すれば、家にいながらにして24時間就職活動ができます。たとえば、「ハローワークインターネットサービス」ではハローワークが受理した全国の求人情報を検索できます。ハローワーク各所のホームページでもチェックできます。毎日チェックするなら「新着求人」だけを見れば効率的です。その他公共の就職支援機関や民間の転職会社が運営するホームページもたくさんあります。気になる言葉で検索したり、リンク先で情報の幅を広げたり、興味を持った企業のホームページを見たりと…インターネットを上手に使いこなして情報収集能力を高めましょう。

～派遣会社への登録～

期間の制約はあってもスキルや経験を生かして働きたい…という方は派遣会社へ登録して仕事の紹介を受けるという方法もあります。派遣は雇い主も給与の支払いも派遣会社ですが、指揮命令は派遣先の企業で受けるという働き方です。



☆ インターネットで求人検索する時のポイント ☆



求人検索する時、希望の条件にチェックをつけたり選択したりしますよね？ その際すべての条件に細かくこだわって「ハイ検索！」って押すと「何も見つかりませんでした」と出て、がっかり脱力することがあります。それであきらめてはいけません。

その時は、希望する条件で優先順位の低いものからチェックを外して試してみてください。ひとつふたつと外していくうちに求人は増えていきます。100%希望どおりとはいきませんが、妥協できる範囲の求人に出会うことができます。

☆「あ、これいいかも…」と あなたの心にひっかかる求人を見つけた時のポイント ☆



「わからないことがあるから」「きっと〇〇だからダメだろう」とあっさりあきらめてはいませんか。あきらめるのは「すぐに問い合わせ」をして自分で確かめてからでも遅くありません。

最後に…チャンスを逃さないポイント「スピードとアクション」

企業は求人を出して応募者がたくさん集まれば受付期間であっても応募を締め切ります。

現在の厳しい雇用情勢においては皆必死で仕事探しをしており、一日もかかさず求人情報をチェックしてすぐに応募という行動を起こしています。

「この求人いいな」と思うのはあなただけではなく、ライバルはたくさんいるのです。のんびりしていると応募のチャンスさえ失います。「迅速な行動」これがポイントです。



平成21年度 チャレンジ事例集

平成22年3月

発行・編集 宇都宮市男女共同参画推進センター
〔宇都宮市 市民生活部 男女共同参画課〕

〒320-0845 栃木県宇都宮市明保野町7番1号

Tel: 028-636-4075 Fax: 028-636-4079

E-mail: u18100201@city.utsunomiya.tochigi.jp